

不服審査請求提出 後期高齢者 14 介護保険 43 国 10 件

団体署名 県知事あて 147 通、後期高齢者医療広域連合 144 通

怒りのひとことカード 30 通を提出

「年金減らすな」「社会保障へお金を使え」とパレード 猛暑の中、56 人が参加

8 月 31 日の昼から、後期高齢者医療制度の廃止と、社会保障の充実を求めて、和歌山城西の丸広場から県庁正面前へパレードが行われました。56 人が参加しました。今年は新型コロナ感染防止の観点からシュプレヒコールは行わず、宣伝カーで「年金減らすな」「国は社会保障にもっとお金を使え」と訴え、参加者は「怒」「廃止」と書かれたプラカードを持って歩きました。また、猛暑の中で、感染症対策でマスク着用での行進になりました、お疲れ様でした。



県庁内で行った県への要請行動には入場の制限がかかった為、代表者 5 人が参加し、年金者組合の深谷委員長が要請書を読み上げ提出しました。不服審査請求は後期高齢者医療が 14 通、介護保険が 43 通、国保は 10 通それぞれ提出しました。また、団体署名を 147 通・怒りのひとことカード 30 通を提出しました。

保険料を引き上げよ～「財政安定化基金の活用を県と協議中」

資格証明証は発行せず、短期証は 233 件発行

その後、県広域連合事務局への要請行動には 15 人が集まり、事務局長と次長、総務課長、業務課長が対応しました。南本代表幹事が要請書を読み上げ、後期高齢者医療制度の廃止や国保・介護保険料の軽減など訴え、団体署名 144 通を添えて手渡しました。総務課課長からは、「広域連合は後期高齢者制度の運営主体として設置されたもので、この制度を安定的に運営するという責務がある。



この事を第一に取り組んでいるので、ご理解頂きたい。」という回答でした。また軽減特例については、8 月 6 日に全国後期高齢者医療広域連合協議会を通じて、年金不支給者等、低所得者への配慮と国において財政支援を行うよう厚労省に求めているとの事でした。

今年大幅に引き上げられた保険料の引き下げを求めたのに対して、広域連合側は、「財政安定化基金の活用について県と協議している」と回答しました。また、受診抑制で医療費が当初の予測を下回っているということですが、保険料をすぐに引き下げることはならず、長期的にみていかなければなら

ないと回答しました。窓口 2 割負担については、現状の負担割合を維持するよう全国協議会を通じて要望しているということでした。

資格証明証については発行したことがないと回答、差し押さえについては、市町村において必要なケースについて適正に実施されていると回答しました。昨年実績で 105 件、730 万 1 千円を差し押さえしています。短期証の発行数は 6 月 1 日現在で 233 件です。

集団検診については、今年度は 13 町村が実施しています。進まない理由については、健診の委託先が対応仕切れない、保健所の人員確保が難しいことがあげられました。